



金沢市 第3期SDGs未来都市計画 (2026～2030)

金沢市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 成果と課題.....	5
(3) 2030年のあるべき姿.....	6
(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	8
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	10
(2) 情報発信.....	17
(3) 普及展開性.....	17
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	19
(2) 行政体内部の執行体制.....	22
(3) ステークホルダーとの連携.....	23
(4) 自律的好循環の形成.....	27
4 地方創生・地域活性化への貢献	28
5 参考資料	32

1 将来ビジョン

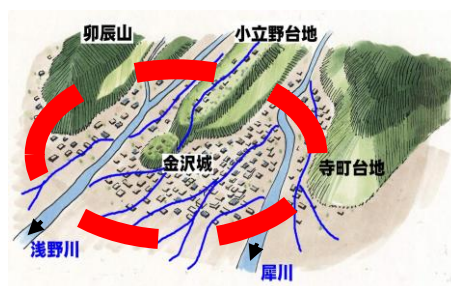
(1) 地域の実態

①地域特性

金沢市は本州のほぼ中心に位置し、明治 22 年(1889 年)の市制施行以来、近隣町村との合併によって市域を拡大し、平成8年(1996 年)に中核市に移行した。

面積は約 469k m²であり、3つの台地と、2本の川を骨格とし、豊かな自然に恵まれている。藩政時代にまちの礎が築かれて以来、戦災や大きな災害に見舞われたことがなく、歴史的街路やまちなみを色濃く残す伝統と歴史のある都市である。

2020 年の国勢調査の結果によると、本市の人口は 463,254 人となり、2015 年調査に比べて 2,445 人の減少となった。人口構造は年少人口が少ない人口ピラミッドとなっており、今後さらに人口減少と少子高齢化が進行することが予想されている。



1 まちの立地

2015 年3月の北陸新幹線金沢開業により、東京までの移動時間が大阪・京都と同じ約2時間半に短縮されるとともに、2024 年3月の福井・敦賀延伸とそれに伴う石川県内全線開業により、国内における交流の可能性は一層高まっている。また、航空ネットワークやクルーズを介し、台湾や中国など東アジアとの関係においても幅広い交流が可能である。

2 まちの品格

金沢には、歴史、伝統、学術、文化など他都市にはない個性がある。同時に、古いものと新しいものが共存し、互いに刺激しあい、磨き高めあうことで発展してきた重層性がある。このような藩政時代から連綿と引き継がれた金沢ならではのまちづくりの規範は、歴史都市や創造都市、都市生態系再生モデル都市の認定につながるなど、まちの品格を生み出している。

3 独自の産業

金沢は、伝統工芸をはじめとする独自の産業構造を有しており人、モノ、情報が連関する多くの地域産業がある。そこで育まれた技術・工芸は、グローバル化によって淘汰されることなく、ローカルでありながら世界に伍していくことが可能である。



4 交流の潜在力

歴史・伝統・文化に興味・関心があり、長期滞在型・個人旅行が中心の外国人観光客にとって、東京から金沢、高山白川郷等を回り京都に向かう、日本らしい歴史や文化を体感できるルートは、ゴールデンルートとなりつつある。

また、金沢は、学術・文化の拠点性を有するとともに、建築の魅力や現代美術などの面においても新たな創造性を育んでおり、観光拠点として国内外との交流を活発にする潜在力を保持している。



5 独特のコミュニティ

金沢には、藩政時代から培われた自治の伝統があり、市民はまちへの強い愛着と連帯意識を持っている。それらは、現在でも、町会や公民館の地域活動をはじめ、福祉活動や地域の消防団を核とする自主的防災活動などに息づいており、連帯と協調を旨とする市民意識の土壌になっている。



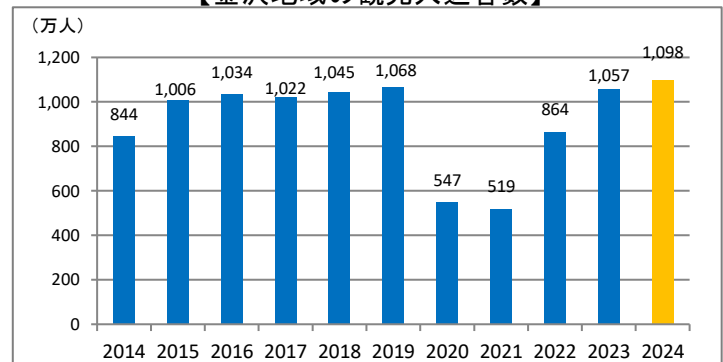
②今後取り組む課題

これまでの歴史文化の中で培われた金沢の強みを生かし、多様な世代の人々の関わりを尊重しながらその豊かな文化を育み、市民と共に「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の魅力を広く国内外に発信することで、持続的に発展するまちを目指している。

1 新幹線時代への対応

北陸新幹線の金沢開業や福井・敦賀延伸による効果を生かし、引き続き交流人口の拡大を図ることが重要である。一方、金沢の誇る有形無形の資産が観光により「消費」され、変質し、中長期的に価値を失ってしまわないよう市民生活と調和した持続可能な観光の実現が求められる。

【金沢地域の観光入込客数】



2 多様化した価値観へ対応した施策の推進

コロナ禍を経て変容した価値観の多様化により、市民には新たな生活様式や自然環境などに対するサステナブルな意識の高まりとそれに伴う行動の変化が見られ、働き方や住まい方への多様化に対応するためのDX等の取組が急務となっている。

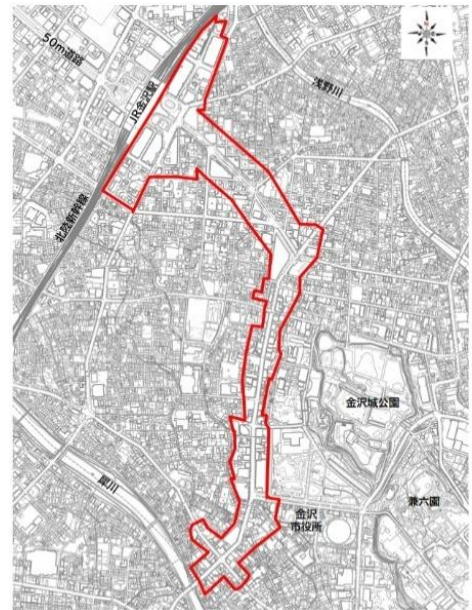
3 国内外との交流の促進

グローバル化や情報化が急速に進む中、県内や北陸地域のみならず、新幹線沿線都市や広域観光ルートを結ぶ都市との連携・交流が必要である。さらに、ユネスコ創造都市や姉妹都市など、アジアをはじめとした世界の国々との交流が求められる。

4 骨格となる都心軸の再興

金沢の拠点性を向上させるためには、都心軸において、賑わいと交流を創出する都市機能の集積を図るほか、民間の再開発を促進することが重要である。

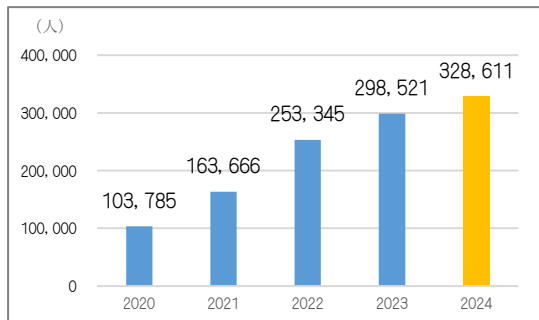
【都市再生緊急整備地域(金沢駅東地域)】



5 環境を重視したまちへの転換

人と自然との共生という日本文化の根本に立ち返り、エネルギー消費型のライフスタイルから脱却し、環境を重視したまちへの転換を図ることが重要である。

【公共シェアサイクル「まちなり」利用者数が増加】

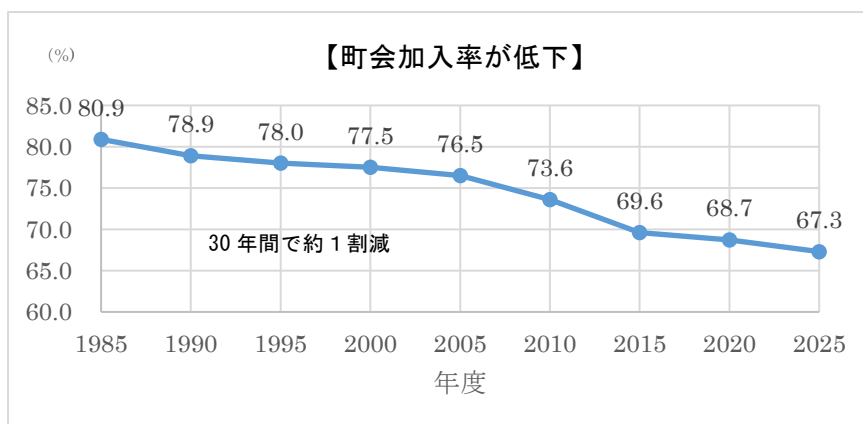


6 令和6年能登半島地震の復興と災害対応力の強化

令和6年能登半島地震や大雨災害の復旧・復興に取り組むとともに、防災体制や地域防災力などの災害対応力の強化と公共インフラの強靱化を推進し、市民が安心して暮らすことができる安全な都市を築いていくことが重要である。

7 新たなコミュニティの形成

独特のコミュニティを有する本市にあっても、都市化や高齢化の進展により、町会加入率が30年間で約1割低下するなど、その弱体化が懸念されている。人と人の絆や支え合いの大切さが見直される中で、現代にふさわしい新たな地域コミュニティを形成する必要がある。



(2) 成果と課題

・IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ

金沢 SDGs 実現のための行動計画である「金沢ミライシナリオ」をパートナーズシップで実現するためのパートナーズ会員数は、2025年3月時点で539に達した。会員間の連携を深めるため、定期的なパートナーズ交流会を実施し、情報発信・共有の機会を提供している。また、市民へのSDGs意識醸成を図るため、2025年で5回目となる「KANAZAWA SDGs フェスタ」を開催し、毎年2,000人を超える来場者にパートナーズの活動を紹介することで、SDGsの普及・啓発に貢献している。今後は、この拡大したネットワークを最大限に活かすため、会員間の交流を一層深め、連携事業の創出などを促進していくことが重要である。

・持続可能な観光の振興

コロナ禍を経て、インバウンドを含む観光客が急増した結果、市民生活と調和した持続可能な観光の振興が求められるようになった。これに対応し、2023年に「金沢 SDGs ツーリズム推奨制度」を開始した。金沢 SDGs の達成に取り組む市内の宿泊事業者や市内を対象とした旅行商品を提供する事業者を、その取組に応じた「金沢 SDGs ツーリズム推進事業者」として認定するものであり、2026年3月時点で、15の事業者を認定した。また、環境面におけるKPIとして掲げている「公共シェアサイクル『まちなり』利用者数」は、既に2030年の目標指数を達成するなど、順調な成果を見せる一方で、「公共交通の利用者数」は、コロナ禍前の水準まで回復していないという課題がある。モビリティマネジメントの推進により、自家用車から公共交通などへの利用転換を図り、環境負荷の低減をめざしていく。



・意識調査

SDGsに関する市民アンケートによると、SDGsという言葉が「聞いたことがある」と答えた人の割合が、2020年の58.3%から2025年には99.0%まで大幅に上昇し、SDGsが広く認知されていることが分かる。その一方で、金沢市独自の取組である「IMAGINE KANAZAWA 2030」や「金沢ミライシナリオ」への認知度は25%未満にとどまっているほか、金沢はSDGsに積極的に取り組むまちだと「感じている・やや感じている」と答えた人の割合は、2022年の53.3%から47.8%へ低下しており、市の活動が市民に十分に伝わっていないという課題が生じている。今後は、このギャップを解消するため、情報発信と啓発施策を強化し、多くの市民がSDGsを「自分ごと」として捉え、具体的な行動へと繋がられる環境を構築していく。

・金沢 SDGs 指標

「金沢ミライシナリオ」では、2030年の金沢のあるべき姿とその目標、そしてそれを達成するための具体的な実践アイデアを掲載しているが、達成度を測る指標がなかったことから、令和5年のあるべき姿と目標に対して、市民ワークショップを通じた市民の意見を反映した具体的な指標を設定し、さまざまなデータを基に現在の進捗度を算出することとした。2025年3月時点で合計76.1%となっており、2030年度100%をめざしていく。

(3) 2030年のあるべき姿

本市は、2018年7月に、公益社団法人金沢青年会議所及び国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット(以下、「国連大学 IAS OUIK」と、持続可能な地域社会の創出を図るため、金沢らしいSDGsの取組を行うことを目的に「SDGsの推進に向けた共同研究に関する協定」を締結し、

- (1) SDGsの達成に向けた独自の目標を設定すること
- (2) SDGsの達成に向けた具体的な行動計画を示すこと
- (3) SDGsの認知度向上を図り、広く市民に普及啓発すること
- (4) その他SDGsの達成に向けた連携協力に関すること

について共同で取組を進めてきた。

そのうち(1)については、「金沢の風土、歴史、文化を踏まえる」及び「経済、社会、環境の3つの側面を包括的に捉える」という観点から議論を重ね、2019年3月に、本市の独自目標であり、2030年のあるべき姿である「5つの方向性」を公表した。



(金沢SDGs「5つの方向性」)

① 古くて新しく心地よいまち(自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる)

金沢の地形は、山地、台地、平野、河川などから構成されており、起伏豊かな地形を土台に歴史や文化が蓄積され、今日では生物文化多様性に富み保存と開発の調和がとれた創造都市として国内外へ独自性を放っている。

こうした金沢の自然、歴史、文化の価値をさらに高め、住む人の目線で心地よいまちづくりをすすめる。

② “もったいない”がないまち(環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる)

持続可能な社会を実現するには、環境への負荷を軽減し、限りある資源を循環させる仕組みや技術を導入することが重要であり、個人のライフスタイル、あらゆる企業活動、地域活動において、二酸化炭素排出量の抑制、再生エネルギーの導入、フードロスの解消、ごみの資源化などをすすめる。

③ 子供がゆめを描けるまち(次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる)

「当たり前の生活」を享受できない相対的貧困が社会問題となっている現代において、生まれ育った家庭の経済状況や障害などに左右されることなく、すべての子供が安心して個性豊かに育つことができる環境をつくる。

また、教育格差の是正や、文化や芸術などを通じて子供の自己肯定感を高める活動に、学校、地域、NPO など多様なステークホルダーとともに取り組む。

④ 働きがいも、生きがいも得られるまち

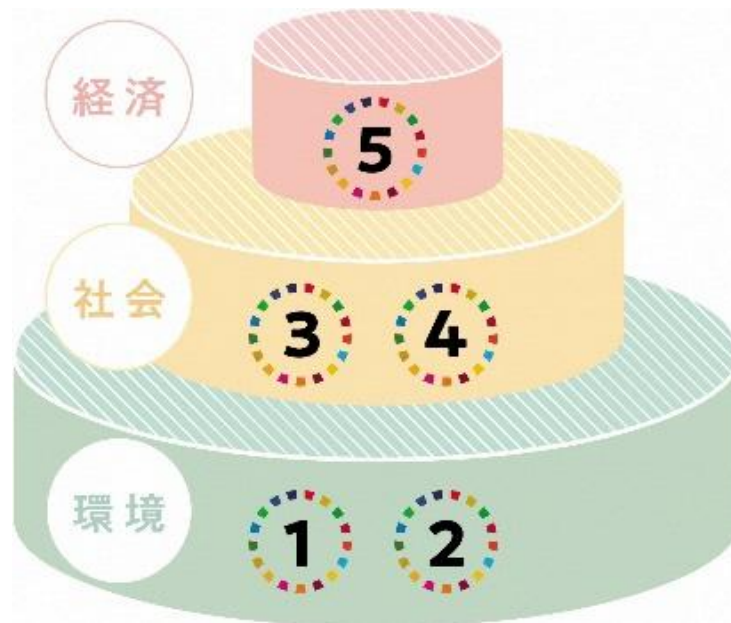
(誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる)

人生100年時代においては、仕事と仕事以外の生活を調和させ、その両方を充実させることが欠かせないため、多様な人材が、ライフステージや能力に合わせた柔軟な学び直し、働き方の選択ができる社会風土を醸成する。

⑤ 新しいもの、ことを生み出すまち


(文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる)

AI などの技術の進化がより加速する反面、持続可能な経営や中長期的な企業価値が問われる時代になっており、こうした背景を踏まえ、金沢の強みである文化の成長産業化や起業支援、学術機関や NPO などとの連携、人材の多様性の推進など、創造性・革新性の向上に向けた仕組みをつくる。






(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 9.5	指標: 地域連携若者起業家支援事業の採択人数(累計)	
	現在(2024年度): 93人	2030年度: 153人
	指標: 金沢の産業が活性化していると感じる市民の割合	
	現在(2024年度): 48.6%	2028年度: 53%

「新しいもの、ことを生み出すまち(文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる)」という2030年のあるべき姿の実現を図るため、歴史に裏打ちされた産業分野での創造力、伝統工芸から現代美術の幅広い分野を網羅する文化力、高等教育機関が集積する知力など、金沢が持つ資産やポテンシャルを最大限に活用し、第4次産業革命に対応した新産業を創出することを目指す。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 1.4	指標: まちの子育て保健室開設地区数	
	現在(2024年度): 33地区	2028年度: 53地区
 4.7 4.a	指標: すべての子どもにとって良好な教育環境が整っていると感じる市民の割合	
	現在(2024年度): 47.9%	2028年度: 60%
 5.1 5.4 5.5 5.c	指標: 女性活躍推進会議参加事業者数(累計)	
	現在(2024年度): 19事業所	2030年度: 28事業所
	指標: 正規労働者へ転換した人数(本市の制度活用による: 累計)	
	現在(2024年度): 251人	2028年度: 640人




「子供がゆめを描けるまち(次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる)」という2030年のあるべき姿の実現を図るため、子供を地域全体で見守り支える体制を作り、経済的困窮の世代間連鎖を防止するとともに、未来に夢と希望を持ち成長できる環境を整える。

また「働きがいも、生きがいも得られるまち(誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる)」という2030年のあるべき姿の実現を図るため、社会における女性の活躍(ポジティブ・

アクション)の促進、すべての高齢者が希望に応じて意欲・能力を生かして活躍できる生涯現役社会の構築や、政策の立案・決定過程への多様な人の参画の拡大に取り組む。

また、障害のある人をはじめ多様な人材が活躍するとともに、労働生産性を高めながら、仕事と家庭、さらには地域活動等との両立が促進されるまちを目指す。

(環境)

ゴール、 ターゲット番号		KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 11.2 11.3 11.6 11.7 11.a 11.b	指標: 公共交通の利用者数		
	現在(2024 年度):	2028 年度:	
	109,880 人/日	128,400 人/日	
	指標: 公共シェアサイクル「まちなり」利用者数		
	現在(2024 年度):	2030 年度:	
	328,611 人	200,000 人	
	指標: 豊かな自然環境が保たれていると感じる市民の割合		
現在(2024 年度):	2028 年度:		
83.4%	88%		
 7.2	指標: 温室効果ガス排出量		
	現在(2023 年度):	2030 年度:	
	2,774 千 t-CO2	1,743 千 t-CO2	
 12.2 12.3 12.5 12.8	指標: 資源化率		
	現在(2024 年度):	2030 年度:	
	11.8%	16.3%	

「古くて新しく心地よいまち(自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる)」という、2030年のあるべき姿の実現を図るため、まちなかを核に、歩行者と公共交通優先のまちを実現し、市民生活にとって重要な社会基盤である、庭園、緑地、用水、里山などグリーンインフラの質を高めることで歴史文化資産の活用、伝統文化の継承・発展、及び新たな文化の創造・発信に取り組む。

また、「“もったいない”がないまち(環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる)」の実現を図るため、環境への負荷が小さく、豊かな自然と生物多様性が保たれ、市民協働で環境保全活動に取り組むまちをつくる。

2. 自治体 SDGsの推進に資する取組

(1)自治体 SDGs の推進に資する取組

①古くて新しく心地よいまち(自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる)

ゴール、 ターゲット番号		KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 11.2 11.3 11.4 11.7	指標: 金沢産材供給量		
	現在(2024年度):		2028年度:
	9,403 m ³		13,000 m ³
	指標: 中心市街地の市文化施設の利用者数		
	現在(2024年度):		2026年度:
	257,280 人		338,887 人
	コミュニティ防災士の新規登録者数(累計)		
	現在(2024年度):		2030年度:
	1,696 人		1,800 人
	シナリオ1における金沢 SDGs 指標の達成度(※)		
現在(2024年度):		2030年度:	
78.0%		100%	

(※)金沢SDGs「5つの方向性」を実現するための行動計画「金沢ミライシナリオ」に基づく、5つのシナリオごとに定めたSDGsの進捗を測る独自の指標。詳細は「5 参考資料」を参照。

・木の文化都市・金沢の創出

市民、事業者、市が協力して、これまで蓄積された「木の文化」を継承・発展させ、品格と魅力のあるまちづくりに取り組む。まちなみや生活に幅広く木を取り入れることにより、歴史・自然・文化と調和した金沢ならではの木の文化都市を創出する。

・公園の再生とさらなる活用

地域コミュニティの醸成や子育て支援に役立つよう、公園をリノベーションする。

・水と緑のネットワークづくり

犀川や浅野川、市内各地を流れる用水など、豊富な水資源とともに生まれてきた本市の緑豊かな自然環境を活用し、より魅力的な景観生成のほか、観光客や市民の憩いの場としての緑地、街路樹等の整備に取り組む。

・生物文化多様性の保全・啓発

自然共生サイトへの認定支援や、白鳥路ホテル観賞の夕べに併せた朗読会の開催など、「自然」と「文学」の視点で生物多様性の理解と普及を図る。

・都市生態系再生モデル都市の推進

国連環境計画(UNEP)による都市生態系再生モデル都市の認定を契機に、都市自然の保全や生態系回復に向けた本市独自の取組を推進し、国内外に広く発信する。

・犀川周辺エリアでのミズベリング(公共空間の利活用)

金沢城の西側を穏やかに流れ、多くの市民や観光客の憩いの場となっている犀川周辺において、公共空間を官民連携で利活用しつつ、新たな賑わいを創出する。

・金沢次世代交通サービスの推進

ICTや自動運転等の新技術の動向を調査し、金沢に相応しい次世代交通サービスのあり方を検討する。

・こども向け伝統文化体験プログラムの実施

茶道等の伝統文化を子どもたちが学び、体験することを通じて、将来の担い手を育成する。

・都市再生特別措置法を活用した都心軸の再興

都市再生緊急整備地域の指定を受けたことを契機に、民間による開発の機運を高め、都心軸エリア全体の面的整備を促進する。

・令和6年能登半島地震からの復旧・復興

公共インフラの早期復旧を図るとともに、被災者の生活再建等を支援するほか、災害からの復興に向けた経済対策を実施する。

・防災体制・地域防災力の強化

地域防災計画や避難所配置、備蓄状況の見直しなど防災体制を強化するほか、危機管理体制の強化を図るコミュニティ防災士や消防団員の確保・育成に取り組む。

・歴史的庭園の魅力発信

歴史的庭園振興プランに基づき、「金沢の庭園文化」を強力に発信し、都市生態系再生モデル都市金沢を推進する。

・用水のまち金沢魅力発信

金沢市用水保全条例に基づき、生物多様性に触れることのできる「用水エコ探検ツアー」などを実施し、用水保全意識の向上を図る。

・薦掛けの保全・継承

長町景観地区の土堀の薦掛けに携わる薦づくり職人担い手育成及び持続可能な薦掛けの継承に向けた仕組みづくりを行う。

②“もったいない”がないまち(環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 7.2 <small>エネルギーをみんなに そしてクリーンに</small>	指標:再生可能エネルギーの発電量	
	現在(2024年度): 233,157千kWh	2030年度: 350,000千kWh
 12.3 <small>つくる責任 つかう責任</small>	指標:ごみの総排出量	
	現在(2024年度): 142,122t	2028年度: 133,756t
 13.1 <small>気候変動に 具体的な対策を</small>  15.5 <small>陸の豊かさも 守ろう</small> 15.c	指標:金沢林業大学校の修了生数(累計)	
	現在(2024年度): 103人	2030年度: 146人
	シナリオ2における金沢SDGs指標の達成度(※)	
	現在(2024年度): 68.3%	2030年度: 100%

(※)金沢SDGs「5つの方向性」を実現するための行動計画「金沢ミライシナリオ」に基づく、5つのシナリオごとに定めたSDGsの進捗を測る独自の指標。詳細は「5 参考資料」を参照。

・食品ロスの削減

本庁舎や市有施設に引き続きフードドライブ窓口を設置するとともに、地域のフードドライブ活動の支援を行っているほか、料理の食べ残し等の削減を実践している市内の飲食店等を「いいね・食べきり推進店」として登録し、市民の「食べきり」を推進している。2025年度には食品ロス削減推進計画(第2期)を策定し、更なる取組の充実を図っている。

・事業系ごみ減量化・資源化の推進

優良排出事業者表彰や啓発セミナーの開催、生ごみ処理機の導入助成など、事業者の環境意識の向上を図り、取組を支援していくことで、事業系ごみの減量化・資源化を推進する。

・家庭系ごみ減量化・資源化の推進

ごみの適正分別の啓発や古紙集団回収活動への支援、生ごみリサイクル循環システムの運用など、市民の環境意識の向上を図り、取組を支援していくことで、家庭系ごみの減量化・資源化を推進する。

・公共施設の照明のLED化

民間の資金と技術力を活用するPFI手法を用いて、公共施設の照明のLED化を推進する。

・宿泊施設や飲食店での食品ロスや小売店でのプラスチックの削減推進

市内飲食店や小売店等を対象に、食品ロス削減、脱プラなどの進め方に関する講習会や、既に、それらを進めている事業者との意見交換会を開催する。

・再生可能エネルギーの活用

市有施設における再生可能エネルギーの活用やPPAモデル太陽光発電設備の導入を推進する。

・環境に配慮した農業への理解促進


減農薬栽培の促進など環境への負荷を減らした環境保全型農業について、生産者や消費者の

理解を深め、普及促進を図る。

・森林資源の適正な管理と金沢産材の利用促進

林業経営に適した森林の主伐・再造林を推進するとともに、金沢産材の普及啓発や住宅等への利用を促進する。

③子供がゆめを描けるまち(次代を担う子供たちの可能性を引き出す環境をつくる)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 4.2 4.7 4.a	指標:「金沢 IT 部活」の部員数(累計)	
	現在(2024 年度):	2028 年度:
	83 人	152 人
	指標:放課後児童クラブ受入児童数	
	現在(2024 年度):	2030 年度:
	5,659 人	5,887 人
	シナリオ3における金沢 SDGs 指標の達成度(※)	
現在(2024 年):	2030 年度:	
83.0%	100%	

(※)金沢SDGs「5つの方向性」を実現するための行動計画「金沢ミライシナリオ」に基づく、5つのシナリオごとに定めたSDGsの進捗を測る独自の指標。詳細は「5 参考資料」を参照。

・芸術による子供の育ち支援

若手芸術家を保育施設等に派遣し、創作活動等を通じて子供の育ちを支援する。

・「金沢 IT 部活アカデミー」の実施

第4次産業革命における新産業創出に向けて、小学生から大学生を対象とした様々なリテラシー(情報活用能力)を育成する課外活動を行い、創造とイノベーションを目指す次世代の育成を図る。

・発達障害等児童生徒への支援

社会性に課題のある児童生徒を対象に、友だちづくりを親子で科学的に学ぶソーシャルスキルプログラムに取り組むとともに、自分自身の興味や能力に気づき個性や才能を伸ばす体験活動を実施する。



・新金沢型学校教育モデルの実践

新しい時代が求める自学・共創の学びを通して、デジタル力・読解力・コミュニケーション力の3つの力を基盤に、児童生徒が新しい価値や最適解を見出す「創造力」を育む教育モデルを実践する。

・子どもアート工房(モデル事業)での芸術・創作活動の推進

幼児期の多岐にわたる経験をもとに、互いを尊重し、多様性を認め合える心豊かな子どもを育むため、幼児の芸術・創作体験事業の拡充により情操教育を推進する。

・学びの多様化学校の開設

不登校児童生徒の学びの保障を図るため、「学びの多様化学校」(不登校特例校)の開校に向けて検討する。

・放課後児童対策の推進

2025 年策定の「金沢こどもまんなか未来プラン」に基づき、放課後の子どもの健全な育成及び仕事と育児の両立を図るため、放課後児童クラブの整備を推進し、待機児童の解消を図るとともに、放課後児童クラブの安定した運営を支援する。




・こどもの貧困対策の推進

生活に困難を抱える子育て家庭への相談支援体制の強化や、こどもの進学につながる学習支

援、体験活動機会の提供等を行う。

④働きがいも、生きがいも得られるまち

(誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる)

ゴール、 ターゲット番号	KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)	
 5.1 5.4 5.5	指標: 男性の育児休業取得に係る事例の発信件数(累計)	
	現在(2024 年度): 12 件 <table style="float: right;"> <tr> <td>2030 年度:</td> <td>47 件</td> </tr> </table>	2030 年度:
2030 年度:	47 件	
 8.5 10.2	シナリオ4における金沢 SDGs 指標	
	現在(2024 年度): 71.0% <table style="float: right;"> <tr> <td>2030 年度:</td> <td>100%</td> </tr> </table>	2030 年度:
2030 年度:	100%	
 10		

(※)金沢SDGs「5つの方向性」を実現するための行動計画「金沢ミライシナリオ」に基づく、5つのシナリオごとに定めたSDGsの進捗を測る独自の指標。詳細は「5 参考資料」を参照。

・男性の育児休業の取得促進

男性の育児休業にかかる奨励金制度を創設し取得を促進する。

・女性活躍の加速

職場での女性活躍を効果的かつ円滑に進めることを目的に、産学官連携のネットワーク組織「かなざわ女性活躍推進会議」を設置し、多様な働き方を実現できる環境の整備を推進するとともに、男性の主体的な家事・育児等への参画や女性農業者の活動支援などにより、女性が活躍できる職場環境の整備を促進する。

・パートナーシップ宣誓制度の実施

戸籍上の性別を問わず、互いを人生のパートナーとして誓ったことを市が公認し、市の裁量の範囲内において行政サービスを提供する。

・就職氷河期世代への支援

就職氷河期世代等の正規雇用への転換にかかる奨励金制度による支援を行う。

・障害のある人の地域生活への支援

地域で生活する障害のある人の親なき後や緊急時に備えるため、アウトリーチにより地域の要支援者の把握を行うとともに、地域連携コーディネーターや拠点事業所と連携し、障害のある人が24時間365日相談できる体制を整え、地域生活支援拠点の面的整備を推進する。

・共生社会ホストタウンの推進

共生社会ホストタウン(2019年12月登録)として、市民とパラリンピアンとの交流会を開催するなど、共生社会の実現に向けた取組を行う。

・地域SDGs学級の開催

学びを通して人と地域がつながる生涯学習社会の促進を目指すとともに、金沢SDGsを推進するため、地域の学級が自ら目標を掲げて通年型の学習プログラムを作成し、学級を運営することを支援する。

・社会教育・リカレント教育の充実

ボランティア大学校や高砂大学校、公民館主催の講座、各大学の社会人向け講座など、現存する多様な学びの機会に関する情報の周知を図るとともに、大学等と連携してリカレント教育プロ

グラムの充実を図る。

・宿泊施設や食のバリアフリーの推進

バリアフリー化促進等のおもてなし力を高めるための宿泊施設の改修支援や、食物アレルギー、ベジタリアンやビーガン等に対応した店舗情報の周知を行う。

・アウトサイダー・アートの魅力発信

芸術的才能を持つ知的・精神障害のある人等の創作活動を支援する。

・金沢スタジアムと中心としたスポーツイベント等の開催

新たに建設された金沢スタジアムを活用し、イベント等を実施することでスポーツによるにぎわい創出を目指す。

・多様な働き方の推進

ICTを活用したスマートワークの導入促進や、職場環境の改善に関する情報発信を行うなど、多様な働き方を推進し、誰もが活躍できる働きやすい労働環境を整備する。



⑤新しいもの、ことを生み出すまち

(文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる)

ゴール、 ターゲット番号		KPI (目標年次が 2030 年でないものについては本市のその他計画から引用)		
	9.5	指標: 地域連携若者起業家支援事業の採択人数(累計)		
	9.b	現在(2024 年度):	2030 年度:	
		93 人	153 人	
		指標: 海外見本市出展等への支援件数(累計)		
		現在(2024 年度):	2030 年:	
			81 件	93 件
		指標: クリエイターや ICT エンジニア等の誘致件数(累計)		
		現在(2024 年度):	2030 年度:	
		8 件	16 件	
		シナリオ5における金沢 SDGs 指標の達成度(※)		
		現在(2024 年):	2030 年度:	
		81.6%	100%	

(※)金沢SDGs「5つの方向性」を実現するための行動計画「金沢ミライシナリオ」に基づく、5つのシナリオごとに定めたSDGsの進捗を測る独自の指標。詳細は「5 参考資料」を参照。

・新産業と人材育成に資する拠点の活用

新たな産業の創出と未来で活躍する人材の輩出を図るため 2021 年に「金沢未来のまち創造館」を開設した。当該施設においては、最先端技術を活用したビジネスや食と工芸に付加価値を生み出す取組にかかる支援やその人材育成及び子どもの独創力を育成する各種事業を実施し、本市産業の振興に資する取組を展開している。

・次世代起業家の育成

次世代で活躍する起業家の輩出を目指すため、小学生、高校生を対象に、起業家精神を養成する多様なプログラムを開催する。

・工芸のつなぎ手人材の育成

工芸作家等と消費者とのつなぎ手となる人材を育成する。

・選定保存技術の伝承

「縁付金箔製造」後継者育成支援プログラムを実施する。

・金沢 SDGs ツーリズムの推進

市民生活と調和した持続可能な観光の実現に向けた取組を行う。

・クリエイティブ産業創出金沢会議(eAT金沢)の開催

金沢の文化や食を世界に発信する交流会議を開催する。

・デジタル技術による金沢の文化や美術工芸等の魅力の発信

デジタル技術を活用して施設の魅力や新たな体験を提供する「金沢ミュージアムプラス」により、文化施設の所蔵品を公開し、市民や来街者、研究者等が金沢の文化に触れる機会を提供する。

・工芸の新しいビジネスモデルの構築

工芸品の新たなビジネスモデルを構築するため、工芸の作り手等が行う販路開拓や市場調査等のモデル事業を実施する。

・国立工芸館との連携

国立工芸館と文化施設が連携し、市民が文化に親しむ機会を創出することで、市民芸術を支える市民のすそ野拡大に寄与する。

・金沢発のイノベーションを誘発する企業・クリエイターの誘致

高度技術産業等の企業立地の促進や、高等教育機関等の集積を生かした企業誘致の強化、クリエイティブな人材の集積・交流を推進し、金沢発のイノベーションを誘発する企業・クリエイターを誘致する。

・産業の成長に向けた DX への支援

IoT や産業用ロボットなどの先端技術とともに AI の多様な活用によりスマートファクトリー化を推進する。

・木の文化都市・金沢の創出(再掲)

・水と緑のネットワークづくり(再掲)

・生物文化多様性の保全・啓発(再掲)

・金沢次世代交通サービスの推進(再掲)

・宿泊施設や飲食店での食品ロスやプラスチックの削減推進(再掲)

・共生社会ホストタウンの推進(再掲)

・宿泊施設や食のバリアフリーの推進(再掲)

・アウトサイダー・アートの魅力発信(再掲)

(2)情報発信

(域内向け)

公式ホームページ、Facebook・X・YouTube などによる情報発信や、「KANAZAWA SDGs フェスタ」など市民向けイベントの開催、地域団体への出前講座の機会を活用した各種リーフレットの配布や、周知動画による発信、総合学習の授業におけるSDGs 講義や成果発表会への参加など、市内での普及啓発活動を継続的に実施するとともに、市民・教育機関・民間企業・マスメディア等との連携を強化し、SDGs に関するワークショップや研修を実施するなど、多様なステークホルダーとの協働により SDGs の普及展開を図る。



(域外向け (国内))

「北陸 SDGsステークホルダーミーティング」や、「北陸SDGs 未来都市フォーラム」の開催など、本市の SDGs の取組を発信するとともに、サステナブルツーリズムに関する動画の公開により、域内外の観光客に向けて持続可能な観光を推進している。全国の地方自治体や、SDGs 未来都市、「IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ」に参加している民間企業などの多様なステークホルダーとのパートナーシップを強化し、広く取組の発信に繋げる。



(海外向け)

「金沢 SDGs」公式ホームページの英語対応や、「金沢ミライシナリオ(金沢 SDGs 行動計画)」英語版冊子の作成など、海外向け発信媒体の制作に取り組み、こうした媒体を活用しながら、「ユネスコ創造都市ネットワーク」や、各姉妹都市交流などの機会を捉えて国際会議等の場で積極的に発信・普及を図ってきた。

また、「IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議」を運営する金沢青年会議所や国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニットも、各々国際会議などの場で事例発表等を行っており、団体連携のもとで広く発信に取り組んでいる。



(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

SDGsを身近に感じてもらうため、地域の特性に合わせて紐解きなおし、共感しやすい地域独自の目標を設定(ローカライズ)することは、地方創生SDGsにとって有効である。

また、目標のローカライズである「5つの方向性」、それを具現化するための行動計画、その成果を測るKPI、これら全ての策定過程において、当初より様々なステークホルダーと協働しており、今後は金沢SDGsの「達成度」を評価するための「金沢SDGs指標」により、達成度の可視化を行うことで、事業の進捗状況を適切に把握し、今後の発信や施策の展開に活用することとしている。これにより、各主体は、金沢SDGsを「自分ごと化」でき、実際のアクションを起こしていく際にも、積極的な参画とパートナーシップの構築が期待できるが、この手法は、どの地域でも取り組めることである。

また、金沢ミライシナリオをパートナーシップで達成するためのプラットフォーム「IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナース」では、登録団体の定期的な交流会の開催や情報発信等を通して参加者同士の新たな協働が自然発生する場づくりを行っている。

さらに、近年問題視されているオーバーツーリズムからサステナブルツーリズムへの転換策として、「金沢SDGs ツーリズム推奨制度」を創設した。これは、観光事業者向けの国際的な持続可能性基準である「GSTC-I」を参考に、金沢の地域特性や課題にあわせた項目・内容でローカライズした独自の制度であり、これにより、推進事業者の取組を広く周知するのみならず、事業者間で好事例を共有するなど、好循環を生み出し、地域全体のSDGs推進を図るモデルケースとなり得る。

これらの取組は、継続的かつ自主的な取組が重要とされるSDGsの取組に有効であり、様々なステークホルダーが存在する、中規模の地方都市において特に有効であると考えられる。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

金沢市において、本市の達成目標とSDGsの達成目標は、「持続可能で幸福な未来の社会（ウェルビーイング）を、多様なステークホルダー（市民、企業、自治体など）が共同で創り上げる（共創する）」という理念において深く結びついているものであり、未来共創計画をはじめ各種計画の推進により、既にSDGsの取組を進めているところである。

1. 未来共創計画

まちづくりの指針である都市像「未来を拓く世界の共創文化都市・金沢」の実現に向けた行動計画として、2024年2月に「未来共創計画」を策定した。本計画は、市政運営の最上位計画であり、都市像に掲げる5つの基本方針ごとに講じるべき主要な施策を、SDGsのゴールとの関連性を示しながら取りまとめており、SDGsの達成に貢献するものである。

2. 第3次金沢版総合戦略

金沢SDGsにおいて目指している、一人一人の市民が、未来を想像（IMAGINE）し、様々な人や組織と協働しながら行動を起こしていくことは、本市の地方創生を実現していく上でも不可欠な視点であることから、第3次金沢版総合戦略（計画期間：2024年度～2028年度）は、金沢SDGsの示す方向性を踏まえながら、具体の取組を示す行動計画として策定することを冒頭において明記している。

3. 第3期石川中央都市圏ビジョン

金沢市周辺の3市2町とともに、連携中枢都市圏である石川中央都市圏を形成している。各々の個性と魅力を高めていくとともに、圏域の将来のあるべき姿、即ち将来像を相互に共有しながら連携することで“住みやすさ”日本一の圏域を目指している。連携市町によるSDGs推進に係る取組を本圏域のビジョンに掲げるとともに、SDGs未来都市に選定された白山市や、大学、国連機関、企業など様々な主体とともにSDGsの推進に取り組むこととしている。

4. 金沢市持続可能な観光振興推進計画2026

金沢市持続可能な観光振興推進計画2026は、『住む人と訪れる人が共感を深め、「ほんもの」を未来へと紡いでいくまち』を戦略テーマとして、「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」の考え方や指標とも整合性を図っており、それらに基づく取組を通じてSDGsの推進に取り組むこととしている。

5. 金沢市地球温暖化対策実行計画

従来の「金沢市低炭素都市づくり行動計画」を基本に、SDGsや本市における現在の状況と課題、国の温暖化防止政策及びエネルギー政策の変化等を踏まえ、「金沢市再生可能エネルギー導入プラン」を統合し、「気候変動適応計画」を追加した『金沢市地球温暖化対策実行計画』を策定している。

6. 金沢市ごみ処理基本計画

国の環境基本計画等各種計画の方向性を踏まえながら、一般廃棄物の適正処理を行うとともに

にさらなるごみの減量や資源化を図り、循環型社会の形成を促進することを目的に策定している。

7. 金沢市食品ロス削減推進計画

「食品ロスの削減の推進に関する法律」や、感染症等による生活様式の変化や少子高齢化、物価高騰の影響等を踏まえ、「金沢市ごみ処理基本計画(第7期)」における食品ロス削減に関する事項の個別計画として位置付け、市民、事業者、行政等の多様な主体の連携により、食品ロス削減を計画的に推進していくことを目的として策定している。

8. ノーマライゼーションプラン金沢 2021

年齢や障害の有無等にかかわらず安全に安心して暮らせる「共生社会」の実現が強く求められることから、新たな施策の柱となる「ともに生きる」と、児童福祉法等の改正や金沢SDGsの推進等を受け、子育て支援の充実や医療的ケアが必要な児童等への支援を強化するために新たな施策の柱となる「豊かに育つ」の2項目を新設し、関連施策の充実を盛り込んだプランを策定している。

9. 金沢市男女共同参画推進行動計画「かなざわ未来 奏でプラン 2023」

男女共同参画社会の実現のための行動計画として、令和5年からの10年間を計画年度とした新しい金沢市男女共同参画推進行動計画「かなざわ未来 奏でプラン 2023」を策定し、その計画の基本的視点において、SDGsとの関連を示している。

10. 金沢市人権教育・啓発行動計画 2023

本計画は、SDGsにおける「人権尊重の考え方」の重要性を踏まえ、「市民一人ひとりが多様性を認め合い、互いの人権を尊重し合う社会の実現」を目標として掲げている。

11. 金沢市地域福祉計画 2023

「金沢の豊かな福祉コミュニティ土壌を基盤に、多様な支え合い体制を構築する」という目標を掲げて策定された本計画は、その基本理念において、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」社会を創りあげることが大切だと明記している。

12. 金沢市木の文化都市推進計画

まちなみや生活に木を取り入れ、歴史と調和した金沢ならではの魅力ある「木の文化都市・金沢」の実現に向けて、令和5年3月に条例に基づく「金沢市木の文化都市推進計画」を策定した。計画の冒頭で、SDGsとの関わりを示し、その考え方に基づいた取組を進めるとともに、金沢SDGsの推進に寄与することを掲げている。

13. 金澤町家保全活用推進基本方針

本基本方針は、金澤町家の保全及び活用の推進に関する条例に基づき、金澤町家を次代に継承し、歴史的なまちなみと文化的景観を保全し、個性豊かで魅力的なまちづくりを総合的・計画的に推進することを目的に策定しており、SDGsとの関連を示しているほか、関連計画として金沢SDGs未来都市計画を挙げている。

14. 金沢市歴史的庭園振興プラン

本計画は、金沢の庭園にみられる多面的な特徴の検討・整理を通して「金沢の庭園文化」を定義することで、歴史的庭園が有する価値や魅力を顕在化させ、歴史遺産・文化観光資源としての効果的な活用の推進を図るとともに、価値や魅力を共有する関係者が協働し、歴史的庭園を持続可能なかたちで保存継承していくことを目指して策定しており、金沢SDGs未来計画を関連計画と位置付け、SDGsの推進に取り組むこととしている。

15. 第3次金沢交通戦略

公共交通を取り巻く環境が厳しさを増すなか、公共交通の利用回復を図り、持続可能な交通ネットワークの構築を実現するため、都市・地域交通戦略及び地域公共交通計画としての役割を担う「第3次金沢交通戦略」を策定している。本計画の基本方針の基本的な考え方において、SDGsとの関連を示しているほか、関連計画として金沢SDGs未来都市計画を挙げている。

16. 金沢市協働推進計画 2026

「金沢市における市民参加及び協働の推進に関する条例」に基づき、市民参加及び協働による市政を総合的に推進するための目標や方針、取組をとりまとめたもので、「みんなの活躍がつながる協働のまちづくり」を目指し、協働の取組が持続可能な地域社会への活力になっていくことで、金沢らしい個性にあふれた誇りあるまちを共に創り出していくと明記している。

その他、上位計画を含む計画期間満了後の後継計画の策定や計画の改定にあわせ、順次反映を進める。

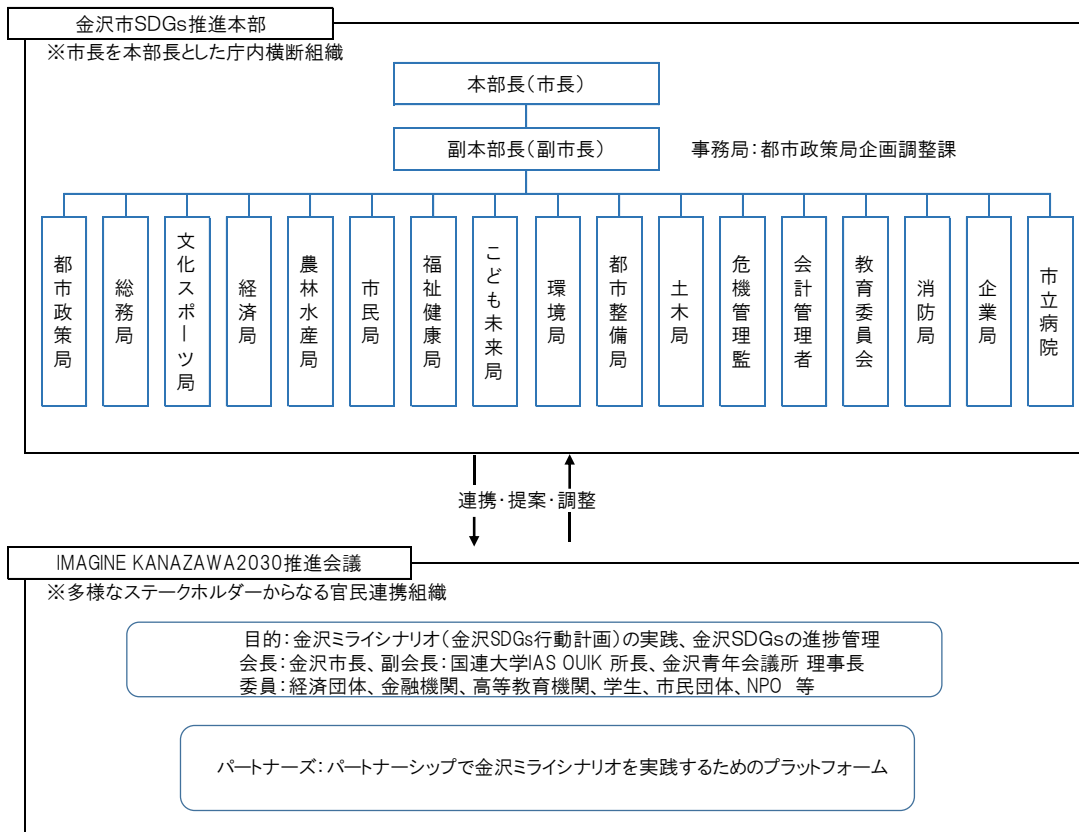
(2) 行政体内部の執行体制

①金沢市SDGs推進本部

金沢SDGsの推進に係る本部機能を強化するため、市長を本部長とした「金沢市SDGs推進本部」を設置し、事務局である企画調整課が各分野の連携・調整を行い、庁内横断的な取組の推進をはかっている。評価については、本計画で定めたKPIを用いた進捗管理とあわせ、「地方創生SDGsローカル指標リスト」等を参考に作成した独自指標「金沢SDGs指標」を基に実施する。

②IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議

金沢市、国連大学 IAS OUIK、金沢青年会議所の3者を含む、金沢の多様なステークホルダーが連携を図りながら、市民や企業等とのパートナーシップの構築や「金沢ミライシナリオ(金沢SDGs行動計画)」に基づく重点プロジェクトの推進を行う組織。経済・社会・環境の各分野の主体で構成し、様々な意見の反映や新たな視点からの課題解決に取り組む。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

金沢市は、2018年7月に国連大学 IAS OUIK、金沢青年会議所の3者で「SDGs推進に向けた共同研究に関する協定」を締結し、翌年3月には金沢が目指すべき独自目標ともいえる「金沢SDGs『5つの方向性』」を導き出し共同で発表した。

2019年度は、この3者が連携を取りながら、市民、企業、NPO、高等教育機関など、さらに多様な主体と連携をとり、独自目標を実現するための具体的なアクションについて検討を進め、2020年3月に「金沢ミライシナリオ(金沢SDGs行動計画)」を策定した。

2020年度以降は、この3者が中心となり「IMAGINE KANAZAWA 2030 推進会議」を立ち上げ、市民や企業等とのパートナーシップの構築や「金沢ミライシナリオ」に基づく重点プロジェクトの推進を行ってきた。同会議の活動の一環として、「IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ」制度をスタートし、団体及び個人の会員間のパートナーシップにより課題解決をもたらすコレクティブインパクト創出に繋げる取組を継続的に進めるほか、市民生活と観光の調和を目指す「金沢SDGsツーリズム」(再掲)の普及を各種事業者と連携して進めるため、前述のとおり2024年から金沢SDGsツーリズム推進事業者の認定制度を開始し、金沢市内の宿泊事業者や旅行事業者の中から、SDGsの達成に取り組む事業者を認定し、環境・地域・文化に配慮した「責任ある観光」を推進することで、SDGsの文脈から、環境に配慮した持続可能なまちづくりに取り組んでいる。

○公益社団法人金沢青年会議所

2015年に開催されたJCI(国際青年会議所)世界会議金沢大会において、JCIがSDGsへ積極的に取り組むことを約束する「金沢宣言」が採択されたことを受け、2016年から2020年まで毎年、アジア太平洋地域の各国青年会議所の代表が一堂に参加する国際会議を金沢で開催し、グローバルな課題を共有する機会を設けてきた。

一つの企業や団体の取組を超え、地域を巻き込んだ多様な取組を継続して行っており、金沢青年会議所と連携することで、SDGsを地域全体に効果的に普及させることができる。

○国連大学サステナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット

国連大学 IAS OUIK は、環境、農業、都市と生物文化多様性等をテーマに、金沢や石川の豊かな自然と文化を次世代に手渡していくため、地域に根ざした研究を柱として活動している。その上で、当該研究成果を持続可能な社会づくりにつなげ、そうした日本の地方モデルを、国際社会に発信し、地域から国際的な議論や課題解決を提起している。また、SDGsに関する勉強会やセミナーなど、誰でも気軽に参加できる場である「SDGsカフェ」を本市と共同で開催してきたほか、高等教育機関と連携し、学校での講座等、地域におけるSDGsの普及啓発と人材育成に取り組んでいる。国連の学術機関である国連大学 IAS OUIK と連携することで、世界への取組発信や世界の最新事例の収集、本市取組のリアルタイムな評価、近隣のSDGs未来都市など多様な主体との連携にかかるプラットフォームの提供等の効果がもたらされている。

上記2者と金沢市を中心に、以下のステークホルダーと連携し、SDGsを推進していく。

(1) 市民

① 金沢SDGsミーティング

金沢市が目指す 2030 年の姿や「5つの方向性」を達成するための具体的なアクション(行動)を検討する会議として、教育や環境、IT などの専門家、NPO、企業経営者、学生、行政職員等が参画し、「金沢ミライシナリオ(金沢SDGs行動計画)」を完成させた。



② 町会、公民館

本市の各町会は、地域住民が自主的に運営する団体で、地域住民の親睦、地域の安全・安心、良好な生活環境の構築を目的として、地域に根差した活動を行っている。

また、金沢の地区公民館(61館)の運営費は、町会費を通じて地域の住民が負担しており、多くのボランティアの支援によって活動が支えられている。こうした運営方式(金沢方式)は、全国的に見ても特色があり、住民自治の意識を育てている。

公民館は、地域に根差した生涯学習の場となっており、地域 SDGs学級などの実施を通して金沢SDGsの市民への普及促進を図る際に重要な役割を果たしている。

(2) 教育・研究機関

金沢は、明治中期に、官立の高等中学校が設置された全国 5 都市のうちの一つであり、今なお、金沢市内及び近郊に高等教育機関が集積している「学都」である。学生と市民との相互交流や、学生と金沢のまちとの関係が深まることで、にぎわいと活力が創出されるまちを目指している。

本市は現在、8つの高等教育機関と包括連携協定を締結し、各分野の施策を進めており、今後、SDGsに関する取組についても連携を深め、2030年の持続可能な社会を担う次世代の育成や、研究とその成果を政策に結びつける取組を引き続き実施していく。

① 金沢工業大学

包括連携協定を締結し、市民生活への AI 技術活用、中心市街地のにぎわい創出、歴史遺産の保存活用等で連携している。同大学は、第1回ジャパンSDGsアワードを受賞しており、「金沢ミライシナリオ(金沢SDGs行動計画)」の策定に向けた議論に同大学の学生が参画しているほか、2019年12月には、北陸の「SDGs未来都市」、本市及び国連大学 IAS OUIK と、「北陸ステークホルダー会議」を共催するなど、SDGs推進に係る、地域の先導的な役割を担っている。

② 金沢大学

包括連携協定を締結しており、産学官連携活性化、プログラミング教育、北陸新幹線開業後の社会動態の要因分析、外国人との共生推進、「学生のまち」推進などで連携している。珠洲市(SDGs未来都市)、輪島市(SDGs未来都市)、石川県、穴水町、能登町と「能登里山里海SDGs マイスタープログラム」を実施する等、多くの教授や学生がまちづくりに関する活動への参画を通して、SDGsの推進、活力ある地域社会の形成・発展及び人材の育成に寄与している。

③石川県立金沢西高校

2019年より同校において、金沢青年会議所、国連大学 IAS OUIK とともに、「金沢SDGsの実現」をテーマにした PBL(課題解決型学習)を実施した。慶應義塾大学のゼミや地元大学生の協力も得て、高校生の各チームに大学生等のメンターを配置し、地域課題の理解と解決策の探求を実施した。



(3)企業・金融機関

①北國新聞社

SDGs推進に係る連携協定を締結し、市民や企業などへの普及啓発や情報発信で協力を図っている。新聞を活用した学校教育を推進するとともに、地域の魅力の創造や再発見を通じて、ふるさとに対する愛着や誇りの醸成、地域振興に取り組んでいる。

②地元等金融機関

自立的好循環形成のため民間資源活用にかかる勉強会を以下企業との連携により実施し、SDGsインパクトを生み出すステークホルダーの連携強化や事業の加速化・自立化を活用する手法について検討を進めている。

- ・金沢信用金庫
- ・興能信用金庫
- ・損害保険ジャパン株式会社 金沢支店
- ・第一生命保険株式会社金沢支社
- ・株式会社日本政策投資銀行北陸支店
- ・野村證券株式会社金沢支店
- ・株式会社北陸銀行
- ・株式会社北國銀行

③IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ参加企業

観光、飲食店、金融、サービスなど業種を問わず、様々な企業を含む団体及び個人が金沢SDGsの趣旨に賛同し、参加している。(539団体:2025年3月末時点)

2. 国内の自治体

①石川中央都市圏の連携（白山市・かほく市・野々市市・津幡町・内灘町）

石川中央都市圏においては、住みやすさ日本一の圏域をめざして様々な連携事業を実施しており、金沢市のSDGs達成に向けた取組の中でも、子育てアプリ事業や産後ケア事業等については、広域連携事業として取組をすすめ、今後、石川中央都市圏への横展開を図ることを想定している。

②北陸のSDGs未来都市

北陸地域の各都市のSDGs取組状況の相互理解やネットワークづくりやステークホルダーとの連携を確認することで、北陸地域のSDGsの気運醸成と全国への発信の機会とするため、「北陸SDGs未来都市フォーラム」を開催した。国連大学 IAS OUIK をはじめとする関係機関とともに北陸地域のSDGs推進拠点都市として活動するとともに、他地域での横展開を図る。

3. 海外の主体

①ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市

2019年10月に金沢市でユネスコ創造都市ネットワーク分野別会議(クラフト&フォークアート分野)を主催し、海外の都市のSDGsに関する事例の紹介や連携についての議論を行った。会議の結論では、クラフト&フォークアートを生かして、都市の持続可能性を高めるとともに、掲げている17の目標について各都市が協力して達成を目指すことを宣言した。今後もユネスコ創造都市ネットワークでの交流を通じて、SDGs推進における連携を深めていく。

②姉妹都市

アントワープ市(ベルギー)

1971年に姉妹都市提携を結び、両市の特色である芸術・学術分野での交流を活発に行っている。アントワープ市は、ユネスコ創造都市の音楽分野で登録されるとともに、国連SDGsアワードを自治体として世界で唯一受賞している。今後も、工芸作家の派遣や音楽団等の受入を通じて、SDGsと文化との親和性を高める取組を推進していくとともに、双方の取組の世界への発信についても協力して取り組む。

ナンシー市(フランス)

1973年に姉妹都市提携を結び、青少年・文化・学術・スポーツなど幅広い分野での交流を活発に行っている。2022年10月にフランス・エクサンプロヴァンス市で開催された第7回日仏自治体交流会議では、SDGsをテーマに両自治体による議論が交わされナンシー市および金沢市は持続可能なツーリズムについての取組を紹介した。今後も、両市の施策や経験を共有し、SDGsの取組を加速していく。

③都市生態系再生モデル都市

2023年に国連環境計画(UNEP)の都市生態系再生モデル都市に認定されたことを受け、2025年5月に「都市生態系再生国際シンポジウム in 金沢」を開催した。モデル都市やパイロット都市の代表者や国内外の専門家との交流により、都市生態系の回復や生物多様性向上における文化と市民参加の重要性について、先進事例や知見の共有を行った。今後も、情報や経験を共有し、相互にSDGsを推進していく。

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

金沢SDGsの達成に資するIMAGINE KANAZAWA 2030のプロジェクトに賛同する企業・団体等が登録するプラットフォーム「IMAGINE KANAZAWA 2030 パートナーズ」を整備し、公式ホームページやメールマガジンを通じた情報発信及び共有が行えるようになったほか、定期的を開催する「パートナーズ交流会」等の機会を活用して自主的に団体連携を行うなど、新たなプロジェクトの創出に繋がっている。

また、「金沢SDGs ツーリズム推進制度」は、認定を受けた事業者のブランドイメージ向上を図るとともに、事業者間のノウハウの普及を促している。これにより、SDGへの取組を地域全体に広げ、持続可能な観光への好循環を創出している。

(将来的な自走に向けた取組)

パートナーズ登録団体を中心とした地域課題解決に取り組むプロジェクトの自走化や、SDGsに取り組む事業者が、ブランドイメージの向上による集客力の強化と成功事例の共有によって経済的効果を獲得し、持続可能な活動へと自律的に繋がる循環の創出を目指している。

4 地方創生・地域活性化への貢献

本計画は、これまでの歴史文化の中で培われた金沢の強みを生かし、多様な世代の人々の関わりを尊重しながらその豊かな文化を育み、市民と共に「世界に誇る文化都市・金沢」の魅力を広く国内外に発信することで、持続的に発展するまちを目指している。

市民一人ひとりが自分ごととして踏み出すアクションの一步に繋げるため、関連団体とのパートナーシップのもと、「金沢ミライシナリオ(金沢SDGs行動計画)」の推進を通して、金沢SDGs「5つの方向性」に基づく経済・社会・環境の三側面からの取組を進めてきた。

今後も、地道な取組を積み重ねながら、SDGsが世界共通の目標(=共通言語)であることを生かし、SDGsの文脈でまちの魅力を国内のみならず世界に発信していくことで、市民と考え方や行動を共有し尊重する「金沢に根づいた観光をする観光客」を世界中から呼び込む基盤づくりを、市民とともに進めていきたい。

このことによって、市民が一層快適で暮らしやすく、市民生活と観光の調和が図られた真の持続的で魅力あるまちづくりを市民との協働により達成することに繋がると考える。

そして、令和6年能登半島地震を教訓に、防災体制を強化し、災害に強いまちづくりを推進することで、市民の安全・安心を守り、持続的な展開を支える強靱な地域社会を築いていく。

このように、地域の担い手である市民自身の手で地域課題の解決をめざす本計画の取組が推進されることは、地方創生・地域活性化に資するものであり、併せて他地域への地方創生の普及展開にも繋がるものである。

5 参考資料(金沢 SDGs指標)

94 のデータを採用し、2030 年の目標値をそれぞれ設定。目標値に対する現況値を進捗率として評価。

シナリオ	目標	指標	データ数	主なデータ
《シナリオ1》 自然、歴史、文化に立脚したまちづくりをすすめる ～古くて新しく心地よいまち～	金沢らしい暮らし方、働き方、住まい方を知り、継承する。 歩いてまちの魅力を感じる。 自然と調和した、災害に強いまちをつくる。 いろいろな世代がわくわくするコトと場をつくる。	01文化・景観の保全・継承	3	歴史や文化に触れる機会が身近にあるまちだと感じる市民の割合
		02まちなか区域の活性化	1	中心市街地の45歳未満人口の年間社会動態
		03地域活動への参加	2	町会加入世帯数
		04歩きたくなる魅力の創出	2	まちなかの歩行者通行量
		05車を使わないライフスタイルの推進	3	公共シェアサイクル「まちなか」利用者数
		06防災レジリエンス	3	防災に関するイベント参加者数
		07身近な緑の充実	5	街路樹の本数
		08自然環境との調和	3	「野外で動物や植物に親しむ人」の割合
		09まちなかと里山の交流	3	小学生の農業体験実施割合
		10公共空間の活用	2	公共空間利活用事業実施日数
		11地域の個性の創出	1	多様な主体との連携により取り組む事業数
《シナリオ2》 環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる ～"もったいない"がないまち～	あらゆる手段で、二酸化炭素の排出量を抑える。 環境負荷の少ない「つくる・運ぶ・売る・買う・使う・捨てる」にシフトする。	12二酸化炭素排出量の削減	1	温室効果ガス排出量
		13エネルギー使用量の削減	1	金沢市全体のエネルギー消費量
		14クリーンなエネルギーへのシフト	1	再生可能エネルギー発電量
		15移動による環境負荷の軽減	1	パーク・アンド・ライド利用者数
		16環境にやさしいものづくり	1	産業部門の二酸化炭素の排出量
		17地域資源の活用	2	金沢産材の供給量
		18エシカルな消費	3	エシカルな買い物を実践している市民の割合
		19ごみの削減	2	ごみのリサイクル率
		20先進的な学びのプログラムの充実	1	ESD教育に取り組む学校数
《シナリオ3》 次代を担う子どもたちの可能性を引き出す環境をつくる ～子どもがゆめを描けるまち～	子どもの多様性を尊重し、個性を伸ばす。 すべての子どもが安心して暮らし、育つことができる環境をつくる。 学校に関わるすべての人の幸せを実現する。	21学校以外の学びの充実	1	人口1人当たりの社会教育施設割合
		22多様な子どもが安心して学べる環境	3	「自分にはいいところがある」と感じている児童・生徒の割合
		23子育てを安心してできる環境	4	ファミリーサポートセンター活動件数や提供会員数
		24子どもが安心できる環境	3	金沢子ども応援ネットワーク 参加団体数 事業数
		25地域と学校の連携	2	学校に関わる校外の人の数
		26教員が安心して働ける環境	1	教員の時間外勤務時間
		27女性の活躍	3	市議会議員の女性の割合
《シナリオ4》 誰もが生涯にわたって学び活躍できる社会風土をつくる ～働きがいも、生きがいも得られるまち～	多様な価値観や文化を大切に。 誰もが自信と生きがいをもって生活できるようにする。 誰もが学びたい時に学べる場を用意する。 一人ひとりが、いつでも、何度でもチャレンジできる環境をつくる。	28多様性の理解	3	LGBTIに関するセミナーの実施数 参加人数
		29多様な人が暮らしやすい環境整備	1	性別、国籍、障害の有無などに関係なく、多様な人が活躍できるまちだと感じる市民の割合
		30市民の生きがい充実度	1	【再掲】「自分にはいいところがある」と感じている児童・生徒の割合
		31文化・スポーツに触れる機会の充実度	3	クラフトインデックス掲載 ギャラリー、店舗数
		32多様な世代の学びの場の創出	2	金沢かがやき発信講座数 開催件数
		33働きたい人が働ける環境	3	高齢者の就職率
		34個々にあった多様な働き方ができる環境	2	はたらく人にやさしい事業所表彰数(累計)
《シナリオ5》 文化や産業に革新的イノベーションが起きる仕組みをつくる ～新しいもの、ことを生み出すまち～	イノベーションが起きやすい条件と要素を集める。 多くの起業家やベンチャー企業が生まれ、連携してイノベーションを起こす仕組みをつくる。	35工芸文化の保全・発展	3	職人大学の修了者数(累計)
		36テクノロジーの活用	3	オープンデータのダウンロード数
		37企業の稼げる力向上	1	新製品開発・改良製品数(累計)
		38挑戦を応援する環境	2	地域連携若者起業家支援件数(累計)
		39人や企業をつなぐ場・つなぐ人材の充実	2	IMAGINE KANAZAWA 2030パートナーズの会員数
		40地域外からの流入による経済・産業の循環	1	移住者の起業数
		41クリエイターやアーティストを応援する環境	2	金沢AIDレジット形成促進事業件数
		42人や技術の国際交流	2	世界の見本市への出展件数
《方向性1～5をすすめるパートナーシップ》	多様な人が「金沢ミライシナリオ」に参画する。 連携による協働で目標を達成する。	43SDGsの学びの場の充実	1	各公民館のSDGs学級(女性学級)の開催数
		44市民・企業のSDGsの実践	2	日頃からSDGsを意識した行動をしている市民の割合
		45パートナーシップの構築	2	市民活動サポートセンターにおける交流や連携のマッチング数
金沢ミライシナリオ全体データの数 合計	金沢ミライシナリオ全体	46持続可能な金沢の実現	0	
			94	

金沢市 第3期SDGs未来都市計画
(2026~2030)

令和8年3月 策定